

令和5年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年	2年	3年	5年	6年	アンケート結果		数値化 A+B	評価者	昨年度
									人数	%			
よく考える子「すすんで学び、表現・行動する」	①問いを持ちたり自分の考えと比べたりしながら聞き、積極的に反応・表現できるような場の設定と手立てを工夫する。(ICT活用、他校との交流) 聴く	・問いを持ちたり自分の考えと比べたりしながら聴くことができた。	考えの発表					25			100%	児童	100%
			A	5	4	4	4	17	68%				
			B		2	2	1	3	8	32%			
			C							0%			
			D							0%			
		考えの発表					25						
		A	4	3	3	2	2	14	56%				
		B	1	3	2	3	1	10	40%				
	C			1			1	4%					
	D							0%					
	考えの発表					6							
	A						2	33%					
	B						4	67%					
	C							0%					
	D							0%					
	考えの発表					15							
A						13	87%						
B						2	13%						
C							0%						
D							0%						
よく考える子「すすんで学び、表現・行動する」	②問いを持ちたり自分の考えと比べたりしながら聞き、積極的に反応・表現できるような場の設定と手立てを工夫する。(ICT活用、他校との交流) 話す	すすんで自分の考えを発表することができた。	考えの発表					25			92%	児童	83%
			A	3	2	3	4	12	48%				
			B	2	3	3		3	11	44%			
			C		1		1		2	8%			
			D							0%			
		考えの発表					25						
		A	4	2	1	2	3	12	48%				
		B		3	5	3		11	44%				
	C	1	1				2	8%					
	D							0%					
	考えの発表					6							
	A						1	17%					
	B						5	83%					
	C							0%					
	D							0%					
	考えの発表					15							
A						11	73%						
B						3	20%						
C						1	7%						
D							0%						
よく考える子「すすんで学び、表現・行動する」	③基礎・基本の定着を図るとともに、振り返りを重ねることを通して、活用力の向上を図る。	・学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を振り返り、次の学習につなげることができた。	基礎基本・活用力					25			96%	児童	100%
			A	4	3	3	1	11	44%				
			B	1	2	3	4	3	13	52%			
			C		1				1	4%			
			D							0%			
		基礎基本・活用力					25						
		A	3	1		2	1	7	28%				
		B	1	3	5	2	2	13	52%				
	C	1	2	1	1		5	20%					
	D							0%					
	基礎基本・活用力					6							
	A						2	33%					
	B						4	67%					
	C							0%					
	D							0%					

④様々な活動で、児童が創意工夫しながら主体的に活動する場面を多く設定する。	・学級の係や給食当番の仕事・掃除、たてわり活動や委員会活動で、自分で考えたり工夫したりしながら活動することができた。	創意工夫					25			96%	児童	92%		
		A	4	3	4	3	14	56%						
		B	1	2	2	2	3	10	40%					
		C		1				1	4%					
		D							0%					
	・お子さんは自分で考えたり工夫したりしながら活動しようとしている。(例:公開日での児童の様子等)	創意工夫					25			92%	保護者	83%		
		A	1	4	2	3	10	40%						
		B	3	2	3	5		13	52%					
		C	1		1			2	8%					
		D							0%					
	・学級の係や給食当番の仕事・掃除、縦割り活動や委員会活動等で、児童が創意工夫しながら主体的に活動する場面を多く設定した。	創意工夫					6			100%	教職員	86%		
		A					2	33%						
		B					4	67%						
C							0%							
D							0%							

【結果分析】

①「聴く」ことに関する項目では、児童、教職員、保護者、地域とも目標値を超え高評価をしている。これは、日頃の授業や全体指導の場において、話を聞く姿勢をしっかりと取らせてから話を始めるといった習慣づけや、昨年度からの全校での表現の時間「熊っ子タイム」で、縦割り班やランダムに組んだグループでの交流を通し、互いにほどよい緊張感をもって聴く中で、培われてきたものと考え。また、音楽会発表に向けて、全校音楽でそれぞれの音を聴き比べる経験を積んできたことも貴重だったと考える。

②「話す」ことに関する項目でも、児童、教職員、保護者、地域とも目標値を超え高評価をしている。これも、全校での表現の時間「熊っ子タイム」で、必ず話す機会があるので、少しずつ経験を積み重ねた結果だと考える。また、音楽会発表に向けて、全校音楽でさらによくなるように考え、それをみんなに伝える経験をしてきたことも大事なことであった。

③「基礎・基本の定着を図るとともに、振り返りを重ねることを通して、活用力の向上を図る」項目では、児童と保護者の評価のずれはあるが、児童、教職員、保護者、地域とも目標値を超えている。

④「様々な活動で、児童が創意工夫しながら主体的に活動する場面を多く設定する」項目では、昨年度より特に保護者の値が上がり、児童、教職員、保護者とも目標値を超えている。カプス演奏を学年発表した2・3年生が、熊っ子タイムで他児童に教える場面や、熊川いっぶく時代村での発表や司会者との受け答え、祇園新橋での発表や現地の人の関わり、修学旅行でのPR活動、音楽会での演奏の工夫を考える時間等、たくさんの場面設定があったことで、創意工夫する経験を積むことができ、学校生活場面でも自分で考えたり工夫したりすることができるようになってきたのではないかと考える。

【対応策】

①②について、これからも各種行事や交流学习、熊っ子タイム等で「表現する」ことの大切さや喜びを味わわせながら、普段の生活の中での反応についても指導を継続していく。

③これからも、毎時間の授業や単元ごとの振り返りを継続し、次の学習につなげていきたい。

④様々な場面で、小さなことでも自分で考えて行動したり、工夫点が見られたりしたら褒めて、意識づけを図っていく。

令和5年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	アンケート結果					数値化		評価者	昨年度
				1年	2年	3年	5年	6年	人数	%		
人も自分も大切に する子「自他の笑顔に つながる行動をする」	①人権教育の日常化を 図り、安心して楽しく通 える学校づくりに努め る。 (国際理解、多様性)	・毎日学校へ行くのが楽しい。	不登校未然防止					25			児童	92%
			A	2	5	5	4	2	18	72%		
			B	3	1	1	1	1	7	28%		
			C							0%		
	D							0%				
	・お子さんは学校へ行くのを喜んでおり、不登校 の傾向は感じない。	不登校未然防止					25			保護者	83%	
		A	3	3	3	3	2	14	56%			
		B	2	3	3	1	1	10	40%			
		C				1		1	4%			
	D							0%				
	・人権教育の日常化(国際理解、多様性理解を 含む)を図り、誰もが安心して楽しく過ごせる環境 をつくり、不登校を未然防止することに努めた。	不登校未然防止					6			教職員	100%	
		A						4	67%			
B							2	33%				
C								0%				
D							0%					
人も自分も大切に する子「自他の笑顔に つながる行動をする」	②人とのつながりの中 で、自分を大切にし相 手を大切に集団づ くりを努める。	・悪口や仲間外れがなく、いじめのない学校だ と思う。	いじめ防止					25			児童	100%
			A	5	6	6	4	2	23	92%		
			B				1	1	2	8%		
			C							0%		
	D							0%				
	・悪口や仲間外れなど、いじめのない学校だ と思う。	いじめ防止					25			保護者	96%	
		A	3	5	3	1	2	14	56%			
		B	2	1	3	4	1	11	44%			
		C							0%			
	D							0%				
	・いじめを早期発見できるように、定期的にアン ケートや面談を実施した。	いじめ防止					6			教職員	100%	
		A						4	67%			
B							1	17%				
C							1	17%				
D							0%					
・児童は、人を傷つけるような言動を行わず、楽 しく学校生活を送っている。	いじめ防止					15			地域	100%		
	A						12	80%				
	B						3	20%				
	C							0%				
D							0%					
人も自分も大切に する子「自他の笑顔に つながる行動をする」	③すすんであいさつが できるよう、児童会が主 体となって取り組む。	・すすんであいさつすることができた。	あいさつ					25			児童	83%
			A	4	4	1	3	3	15	60%		
			B	1	2	5	2		10	40%		
			C							0%		
	D							0%				
	・家族とともに、家での朝夕の挨拶や食事の挨拶 に意識して取り組んだ。	あいさつ					25			保護者	88%	
		A	2	2	1	2	1	8	32%			
		B	2	3	5	2	2	14	56%			
		C	1	1		1		3	12%			
	D							0%				
	・いつでもどこでも誰にでも、自分からあいさつが できるように指導を工夫した。	あいさつ					6			教職員	71%	
		A						2	33%			
B							4	67%				
C								0%				
D							0%					
児童は、登下校時にすすんであいさつができて いる。	あいさつ					15			地域	93%		
	A						8	53%				
	B						6	40%				
	C						1	7%				
D							0%					
人も自分も大切に する子「自他の笑顔に つながる行動をする」	・家や学校で決めたスマートルールを守って いる。	スマートルール					25			児童	96%	
		A	5	5	5	1	1	17	68%			
		B		1	1	4	2	8	32%			
		C							0%			
		D							0%			

④スマートルールについて、児童の取組が定着につながるよう、学校と家庭が連携する。	・家や学校で決めたスマートルールについて、家族と振り返りながら守る意識を高めることができている。	スマートルール			25			80%	保護者	
		A	4	2	1	7	28%			
		B	4	2	4	3	13			52%
		C	1	2	2		5			20%
		D								0%
	・家や学校で決めたスマートルールの目標について、守る意識を高める取り組みを工夫した。	スマートルール			6			100%	教職員	
		A				3	50%			
		B				3	50%			
		C					0%			
		D					0%			

86%

【結果分析】

①児童、保護者とも、全体的に、学校生活は楽しい(楽しく過ごしている)と感じている。多様性に関する学習や日常の取り組みから、ちがいを認め合うことや互いを大切にす気持ちも育っていると思われる。

②本校はここ数年、目に見えないじめの実態は確認されていない。また、児童それぞれにも「いじめはダメ」という意識が見られる。普段の学校生活を見ても、優しい声かけや互いを認め合う様子が見られ、個々が落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。

③昨年度と比較して、児童、保護者ともにあいさつに対する評価が10%以上向上している。児童会のあいさつ運動や保護者、地域の方の協力により、登下校時のあいさつなど、普段の生活の中でのあいさつに対する意識が高まっていると思われる。

④児童に関しては、ノーゲームデーを意識している児童が多く、子どもたちの達成感が高い。保護者(80%)に関しては、家庭によってルールの目標値が違うこともあり、意識の高い保護者からはやや不十分という結果につながったのではないかと考えられる。

【対応策】

①日常の授業については、「人権教育の日常化」につながるような取り組みを今後も続けていく。日々の学校生活の中で児童が認められていると感じるような取り組みが、学校、教室の中で行われるような実践を続けることで、今後も毎日通うのが楽しいと感じられる学校を目指していく。

②今後も児童が安心して楽しく通える学校づくりに努めるとともに、家庭との連携を大切にしながら、黄・赤信号を発している状況を見逃すことなく、継続した状況把握や児童理解、児童に寄り添った対応をしていく。

③あいさつに対する意識が高まっているので、今後も児童会を中心にあいさつ運動を進め、登下校時の気持ちを込めたあいさつを続けていく。地域の中の日常の場面などではまだまだ不十分な面も見られるので、いつでもどこでもだれにでもあいさつができるよう、意識づけをしていく。また、家庭内でのあいさつについても保護者と連携しながら進めていく。

④スマートルールについては、「ルールを守ろう、ノーゲームデーを意識する(児童)」、「守らせよう(保護者)」という意識が見られるので、日々の取り組みや保護者と連携した振り返りの活動などを今後も継続していく。今後は、目の健康をからめて、タブレットを使う際の姿勢についての意識づけも行っていく。

令和5年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年	2年	3年	5年	6年	アンケート結果		数値化 A+B	評価者	昨年度
									人数	%			
チャレンジする子「可能性を広げる行動をする」	①学期や行事などの機会ごとに設定した自分の目標達成に向けて、具体的な行動をイメージしながら振り返り、努力を続ける習慣をつける。	目標設定・努力 ・具体的な行動をイメージしながら振り返り、目標に向かって努力を続けることができた。	25					25			100%	児童	100%
			A	5	5	6	3	19	76%				
			B		1		2	3	6	24%			
			C							0%			
		D							0%				
		目標設定・努力 ・おさんは自分が決めた目標に向かって努力を続けることができていた。	25					25			80%	保護者	83%
			A	2	1	3	1	1	8	32%			
			B	2	5	2	1	2	12	48%			
			C	1		1	3		5	20%			
		D							0%				
		目標設定・努力 ・学期や行事などの機会ごとに自分の目標を設定し、具体的な行動をイメージしながら振り返り、目標に向かって努力を続ける習慣をつけることができた。	6					6			100%	教職員	86%
			A						4	67%			
B							2	33%					
C								0%					
D							0%						
チャレンジする子「可能性を広げる行動をする」	②児童の挑戦を支える場の設定を工夫する。	挑戦を支える ・自分のやってみたいこと(苦手なこと含む)に、くり返し挑戦することができた。	25					25			100%	児童	100%
			A	5	4	6	4	1	20	80%			
			B		2		1	2	5	20%			
			C							0%			
		D							0%				
		挑戦を支える ・おさんは自分のやってみたいこと(苦手なこと含む)に、挑戦することができていた。	25					25			80%	保護者	83%
			A	1	3	4		1	9	36%			
			B	4	3	1	2	1	11	44%			
			C			1	3	1	5	20%			
		D							0%				
		児童の挑戦を支える場の設定を工夫することができた。	6					6			100%	教職員	86%
			A						2	33%			
B							4	67%					
C								0%					
D							0%						
チャレンジする子「可能性を広げる行動をする」	③レジリエンス(回復力、しなやかさ)を高める働きかけを行う。	レジリエンス ・失敗から学んだり、困難の受け止め方を工夫したりして、次の一歩につなげることができた。	25					25			96%	児童	92%
			A	3	3	5	4	2	17	68%			
			B	2	2	1	1	1	7	28%			
			C		1				1	4%			
		D							0%				
		レジリエンス ・おさんは失敗から学んだり、困難の受け止め方を工夫したりして、次の一歩につなげることができていた。(例:失敗や気分の落ち込みから抜け出す工夫を感じた。)	25					25			92%	保護者	83%
			A		2	1	1	2	6	24%			
			B	5	4	4	4		17	68%			
			C			1		1	2	8%			
		D							0%				
		レジリエンス ・ソーシャルスキルやピア・サポート活動等を含め、レジリエンスを高める働きかけを行った。	6					6			100%	教職員	100%
			A						1	17%			
B							5	83%					
C								0%					
D							0%						
チャレンジする子「可能性を広げる行動をする」	④読書活動の工夫により、時間を保障し、読解力の向上を図る。	読書 ・学校や家で、たくさん本を読むことができた。	25					25			76%	児童	71%
			A	5	5	5			15	60%			
			B			1	3		4	16%			
			C		1		2	3	6	24%			
		D							0%				
		読書 ・学校の取組をきっかけに、親子で一緒に本を読んだり、読んだ本について話し合ったりすることができた。	25					25			80%	保護者	71%
			A	2	4	3		1	10	40%			
			B	2	2	1	4	1	10	40%			
			C	1		2	1	1	5	20%			
		D							0%				
		読書 ・朝読書、週末読書、読み聞かせ、親子読書等を通じて読書活動を推進することができた。	6					6			100%	教職員	100%
			A						2	33%			
B							4	67%					
C								0%					
D							0%						

【結果分析】

①「振り返り」について、児童は100%であった。校長がリーダーとなり、行事ごとに全児童が目標を設定し、振り返りまでを行っている成果だと思われる。また、それらがすべて掲示されることで他の子の振り返りにも触れることができ、新たな気付きの場となっている。ただ、児童がどのような意識で取り組んだかが保護者に伝わっていない時があるため、保護者は80%であった。

②「チャレンジ」について、児童・教職員ともに100%であった。4月から繰り返しめざす児童像の3つをもとに目標を立てることで児童に普段からチャレンジの意識があったと思われる。教師も児童を後押しする声掛けができた。保護者が80%であった理由は、①同様と思われる。

③「レジリエンス」について、教職員は100%、保護者も83%→92%に評価が上がった。児童一人一人について、全教職員が定期的話し合い、共通理解の場を設けているため、日々の中でも意識を高く持つことができた。保護者の評価が上がったことは児童の家庭での様子が良好であったと捉えることができる。

④「読書」について、児童は76%と目標値を下回っている。保護者は71%→80%と評価が上昇した。朝読書や読み聞かせは、一定の効果を上げているが、学校でじっくり時間を取って本に親しむ場は高学年になるにつれ少なくなっている。親子読書にしっかり取り組んでくださっていることもあり、保護者の数値は上がっているが、実際の家庭での読書の様子をとらえることは難しい。

【対応策】

①行事等の振り返りはめざす児童像の3本柱を基本に続けていく。その際に、学級内でより具体的な内容で取り組めるように指導する。

②教師のプラスの声掛けは大事なので、継続していく。

①②児童がどんな目標で挑戦し、それをもとにした振り返りを掲示していることを参観日の案内などで保護者に伝える。

③「レジリエンス」を意識した取組を継続するとともに、教師のプラスの声掛けを大事にする。また、「失敗することは悪いことではない。次へのチャレンジのスタートである。」という意識を身に付けさせる。

④学校内で読書に集中できる心地よい時間を設定する。(例:高学年の朝読書→○10分間は席を立たない○しゃべらない○教師も読む等)

令和5年度 学校評価

若狭町立熊川小学校

項目	具体的取組	評価の観点	評価	1年	2年	3年	5年	6年	アンケート結果		数値化 A+B	評価者	昨年度			
									人数	%						
家庭・地域との連携「信頼される学校づくり」	①保護者が相談しやすい雰囲気づくり	・保護者が相談しやすい学校の雰囲気があり、学校と家庭が協力して教育を進められた。	家庭との連携					25			100%	保護者	100%			
			A	4	3	4	4	2	17	68%						
			B	1	3	2	1	1	8	32%						
			C							0%						
		D							0%							
		・保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、電話連絡や家庭訪問などを実施し、保護者と連携しながら指導を推進できた。	家庭との連携					6			100%	教職員	100%			
			A						2	33%						
			B						4	67%						
	C								0%							
	D							0%								
	②地域、保護者と共にする学習活動や地域との体験活動の推進	・学校では、熊川地区の自然、文化などに触れる学習や保護者と共にする学習活動を積極的に行い、効果を上げている。	ふるさと学習・家庭との連携					25			100%	保護者	100%			
			A	5	4	5	4	3	21	84%						
			B		2	1	1		4	16%						
			C							0%						
		D							0%							
		・地域の自然や施設、地域の人材を活用した授業や保護者とともにする学習活動を実施し、ふるさとへの意識を高めるとともに夢を育むことができた。	ふるさと学習・家庭との連携					6			100%	教職員	86%			
			A						4	67%						
			B						2	33%						
			C							0%						
		D							0%							
・学校では、熊川地区の自然、文化などに触れる学習を積極的に行い、効果を上げている。		ふるさと学習					15			100%	地域	100%				
		A						15	100%							
	B							0%								
	C							0%								
	D							0%								
	③学校だよりやブログ等による地域への積極的な情報発信	・学校だより、学校ブログや学級だより等の各種お便りを通じて、児童の学校生活の様子などがよく伝わってきた。	情報発信					25					100%	保護者	100%	
			A	5	6	5	3	3	22							88%
			B			1	2		3							12%
C									0%							
D								0%								
・学校だより、学級だより等を発行し、学校や学級の様子を情報発信することができた。		情報発信					6			100%	教職員	100%				
		A						4	67%							
		B						2	33%							
	C							0%								
D							0%									
・学校だより、学校ブログ等を通じて、学校の様子がよく伝わってきた。	情報発信					15			100%	地域	100%					
	A						14	93%								
	B						1	7%								
	C							0%								
D							0%									
④安全	・学校の行っている安全教育や安全対策は、効果を発揮していると感じる。	安全					25			100%	保護者	100%				
		A	4	5	4	4	3	20	80%							
		B	1	1	2	1		5	20%							
		C							0%							
	D							0%								
	・学校の行っている安全教育や安全対策は、効果を発揮していると感じる。	安全					14			100%	地域	100%				
		A						12	86%							
		B						2	14%							
C								0%								
D							0%									
⑤環境	・学校の内外が、常に整頓された状態になっており、居心地の良い環境になっている。	環境					15			93%	地域	100%				
		A						13	87%							
		B						1	7%							
		C						1	7%							
		D							0%							
⑥業務改善	・積極的に業務改善に努め、勤務時間を意識しながら、業務を遂行することができた。	業務改善					7			100%	教職員	88%				
		A						3	43%							
		B						4	57%							
		C							0%							
		D							0%							
	【自由記述】 地域の方から															

【結果分析】

- ①「相談しやすい学校の雰囲気づくり」では、全教職員で児童や保護者の情報共有をし、補い合いながら対応していることもあり、保護者のA評価が伸びた。(45%→68%)
- ②昨年度、教職員が低めの評価であった「ふるさと学習」は、今年度全学年で充実した取組が行われ、評価にも表れている。(86%→100%)
- ③「情報発信」についても、お便り、ブログ、テレビ、メールなど、あらゆるツールを用いて、随時発信できている。お便りでは、子ども制作のものも登場した。
- ④⑤学校の安全教育や安全対策について保護者、地域の方に高評価を得ているが、居心地のよい環境づくりについては、地域の中で課題を感じている方が少数だがいる。
- ⑥業務改善の意識がさらに高まった。

【対応策】

- ①教職員メンバーの入れ替えがあったとしても、現状のように、日常的な情報交換やみんなで子どもたちを指導していく姿勢を大切に、協働して指導にあたっていく。
- ②次年度は熊川小学校最終年度になり、「地域で愛されている学校」の視点をもち、(イベントの大小でなく)地域に開かれた(地域や保護者とともにする)「ふるさと学習」に取り組む。
- ④⑤見守り隊や家庭地域学校協議会などを通じて、安全面や環境面の課題を明らかにし、対応していく。
- ⑥学校への愛着や信頼と業務改善の両立を図りながら、熊川小学校最終年度の指導や業務にあたれるよう、保護者・地域の方との対話を大切にしながら、児童・教職員で自由に創造的なアイデアを出し合う。